

# COVID-19 (Coronavirus) and Sleep Centers: Risks, Precautions, and Recommendations

出典：AAST website

<https://www.aastweb.org/blog/covid-19-coronavirus-and-sleep-centers-risks-precautions-and-recommendations>

この資料は、American Association of Sleep Technologists (AAST) ウェブサイトの[2020年3月25日付ブログ記事](#)を、ISMSJがAASTおよび執筆者の許可を得て和訳したものです。睡眠診療に携わる医療従事者が各自の現場で参考にしていただくことを目的としていますので、転載ほか他の目的での利用はお控え下さい。一部は原文を要約・割愛しています。また原文は米国内向けですので、米国の制度や機関に関連する記載は参考までのご理解としてください。本資料に関連して生じた各施設での事象につきまして、ISMSJは責任を負いかねますのでご了承下さい。

2020年5月 日本臨床睡眠医学会 (ISMSJ)

## COVID-19 and Sleep Centers

American Academy of Sleep Medicine (AASM) のPublic Safety Committee (公衆安全委員会) がFAQを公開し、適宜アップデートしています。ただし医療従事者が臨床での意思決定の拠りどころとするうえで、これらのCOVID-19関連情報は常に新しくなっていること理解しておく必要があります。[米国疾病予防管理センター \(Centers for Disease Control and Prevention, CDC\)](#) の発信する情報のほか、それぞれの地域や州が提供するガイダンスもあわせてご確認ください。

## Risk Management in the Sleep Center: Infection Control

一般的な感染防御策に関連するレクチャービデオが無料掲載されています ([AASTのブログページ](#)から直接ご確認ください)。

## Risks in Sleep Centers using CPAP/BiPAP

COVID-19疑いまたは診断症例に対するPAP療法の使用には一定の感染リスクがあります。例えばSARS流行時、トロントでの症例の半分は医療従事者で、適切なプロトコルに則った対応にも関わらず3名が死亡しました。その際の最大のリスクは気道に関連した医療処置のほか、PAP療法、ネブライザー、ネーザルハイフローによるエアロゾル化した病原体への暴露でした。論拠として利用できるデータは限られていますが、PAP療法も微粒子の拡散を増加させる可能性が示唆されています。このことから、COVID-19の可能性が否定できない患者にマスクによるPAP療法を導入する際は、適否をリスクベネフィットに基づいて包括的に判断する必要があります。

## The Risks of Continued PAP Therapy

- PAP療法が継続的に行われている環境では、COVID-19伝播リスクが高まる可能性があります。患者との近接環境では、特に患者に深刻な感染症のリスクがある場合、これらの病原体が存在しうることを常に考慮する必要があります。理論的にはPAP療法の行われている環境下ではウイルスの拡散リスクが高まりますが、実際に周囲の人々にとってどの程度感染リスクがあるのかよくわかっていません。
- 環境表面にはウイルスを含んだ微粒子が長く残存する可能性があります。
- PAP療法による感染リスクが生じた場合、同じ住居で生活する全員がその対象となります。
- フィルター、チューブ、マスクの再利用による再感染のリスクについては、まだよくわかっていません。

## General Precautions of Healthcare Workers and COVID-19

COVID-19対応が必要になった場合の一般予防策には下記のようなものがあります：

1. 医療従事者は、もし患者が[検査対象基準 \(Persons Under Investigation \(PUI\) criteria\)](#) にあてはまる場合、州または地域の保健部署に報告する。また直ちに施設の感染コントロール責任者にも報告する。
2. 医療従事者がCOVID-19またはそのリスクの高い患者に接する際は、CDCによる[感染予防コントロール \(Infection Prevention control, IPC\) ガイダンス](#)に従う。
3. ウイルスを拡散させないよう対策を徹底する。医療従事者はCOVID-19に関して多くを学んでおく必要があり、特にどのように拡散していくか、どれだけ容易に拡散しうるかは心得ておくべきである。COVID-19ほか全てのタイプのコロナウイルスに関する現在の知見に基づくと、ウイルス拡散はほとんどの場合、濃厚接触時の飛沫が原因と考えられている。以下の条件にあてはまる場合は濃厚接触した可能性がある。
  - 約6フィート（2メートル）の距離で感染者と長時間接触した場合
  - COVID-19感染者の感染性分泌物（血液、痰、飛沫など）に直接接触した場合もし推奨される個人防護装備（Personal Protective Equipment, PPE）を装着せずに濃厚接触した場合は、自分自身が感染したリスクがある。
4. 医療従事者がCOVID-19感染または疑い患者の診療にあたる際は、[CDCによるIPCガイダンス](#)に従う。
  - 患者に急性呼吸器症状やCOVID-19感染要因がある場合は、速やかに評価とトリアージを行い、検査室に誘導しドアを閉めマスクを装着させるなど、暴露機会を減少させる。
  - COVID-19感染要因がある患者を診療する際は、標準的な伝播予防策を行う。感染源となりうる物品に触れた後や、患者の診療前後、PPEの脱着前後（手袋の脱着も含む）にアルコールによる手指消毒を行う。明らかに手指が汚れている場合は石鹸で手洗する。
5. 環境の清掃・消毒を徹底する。医療現場における通常の清掃・消毒を行った上で、特にエアロゾルが発生する箇所については入念にこれらを行う。洗濯と医療廃棄物の管理について、ルーチンの標準予防策を徹底する。

## Recommendations for Sleep Clinics and Sleep Labs

市中でのCOVID-19感染が落ち着いてきた際には、睡眠診療サービスについて再開方法を検討することになります。その際ガイドラインに準拠することは、患者だけでなく医療従事者や睡眠技士の安全担保にも繋がります。COVID-19の拡散を最小限に抑えるため、すべての人が各自のできることをすることが重要です。睡眠の臨床医や睡眠関連施設は[AASM COVID-19 mitigation strategies for sleep clinics and sleep centers– REOPENING \(診療再開に向けた制限緩和策\)](#)を確認してください。

Acknowledgement:

ISMSJ would like to thank American Association of Sleep Technologists (AAST) for permitting to use the blog articles on ISMSJ website.